

4 現状を踏まえた課題



(1)文化芸術鑑賞の機会の提供

- 高年齢層の鑑賞機会が少ない状況にあり、オンライン鑑賞の機会は特に少ない。
 - 働き盛りの世代は忙しさから鑑賞の機会が持てていない。若い世代や高年齢層にとって魅力のある催しが無い。
 - 新型コロナウイルス感染症の影響により鑑賞の機会が少なく、活動の機会や発表の機会も制限されている。
 - 事業の充実が求められており、子ども向けの事業の充実を求める人も多くなっている。
 - 「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が整備され、文化芸術活動を通じた共生社会の実現が求められている。
- ➡ だれもが文化芸術に親しむことができる機会の充実。→⑭・⑳・㉒・㉔・㉖・㉘・㉚・㉜・㉞・㉠・㉡
 - ➡ オンライン鑑賞を手助けする取組の推進。→㉟
 - ➡ コロナ禍でも文化芸術を楽しめる機会の提供。→⑩・㉟・㉡
 - ➡ 文化財団等の事業のより一層の充実。鑑賞事業、アウトリーチ事業の充実。→㉛・㉜・㉞

(2)文化芸術活動を担う人材の育成

- 文化芸術活動に携わる人が減少しており、幅広い年代で担い手が不足している。
 - 担い手不足により、様々な文化芸術活動団体の運営が厳しくなっている。
 - 働き盛りの世代は忙しさから活動に参加できていない。若い世代には活動の魅力が不足しているなどが課題。まずはきっかけづくりが必要。
- ➡ 文化芸術の魅力が伝わるような効果的な情報発信の推進。→㉠・㉡・㉣
 - ➡ 社会教育施設と連携した文化芸術活動のきっかけづくり。幅広い年代の担い手の育成。→⑮・㉡
 - ➡ 文化芸術を次世代へ継承するための取組の推進。→⑬・⑭・㉔・㉖
 - ➡ 若手芸術家などを指導者として地域に派遣する取組の検討。→⑯

(3)文化芸術情報の発信

- 年代によって情報入手方法は異なり、対象者の年代に合わせた情報発信が求められている。
- 文化芸術にふれるきっかけづくりが求められている。
- 現在活動している団体の情報が知られていない。
 - ➡ 受け手に合わせた多様な情報発信の充実。→③①・③③
 - ➡ 文化芸術の情報に接する機会が少ない市民に対しても情報を届ける手法の検討。
→③④
 - ➡ 公民館等の社会教育施設で活動する団体の PR の推進。→①⑨・③②

(4)市民による文化活動支援の推進

- 「市民メセナ活動」、「文化ボランティア」の認知度が低い。
- 「春日井市市民メセナ基金」を活用した事業の規模が拡大したことにより、基金の残高がやや低下したが、寄附を事業実施につなげる取組を始めることができている。
 - ➡ 「市民メセナ活動」が市民に浸透するような取組の推進。→②⑩・②①・②②

(5)文化拠点施設の充実

- 拠点施設までの移動が困難であるという意見もあがっている。
- 市民会館や文化フォーラム春日井と比較して、東部市民センターは利用度がやや低い。
- 開館から 50 年以上経過している市民会館の老朽化対策が必要。
 - ➡ 交通手段が限られる人でも、文化芸術活動に参加できる環境の整備。→①⑩・②④
 - ➡ 東部地区の文化芸術の拠点施設としての、東部市民センターの機能充実。→①⑩
 - ➡ 市民会館の今後のあり方についての検討。→①①

(6)特色ある文化の推進

- まちの魅力をさらに高めていくためにも、春日井市独自の魅力ある文化の創出・継承が求められる。
- 道風記念館の認知度、利用度が低い。「自分史」の認知度も低い状況にある。
- 誰もが参加できる、書を身近に感じられる取組が求められている。
 - ➡ 「書」について、より幅広い層を対象に、多くの市民が集まる機会を利用した企画の検討
→①①・③③・④④
 - ➡ 道風記念館について、PR 方法の検討。幅広い層を対象とした企画の検討。→②②・③③

- ➡ 「自分史」事業と他の分野との連携や、これから自分史に取り組む人の関心を呼ぶような企画の検討。→⑤・⑥・⑦・⑧

(7)文化財・伝統芸能の保存・継承・活用

- 地域の郷土芸能に愛着や誇りを感じる人の割合がやや低い。
- 持続可能な未来に向け、地域の文化的な資産を後世へ継承していくことが求められる。
 - ➡ PR 方法の検討。なじみのない人の理解が深まるような企画の検討。→⑳・㉔
 - ➡ 地域と連携し、文化財や郷土芸能を保存・継承・活用していくための取組の継続。
→㉔・㉕
 - ➡ 文化財に関する調査の推進。調査成果を基にした文化財への関心を向上させる取組の推進。→㉔
 - ➡ 継続的な調査結果等を活用した文化財に対する関心度の向上。→㉔

(8)分野を超えた連携の推進

- 「文化芸術基本法」では、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の文化関係施策を含めて推進していくことがうたわれている。
- 商工会議所や商店街等との連携については、継続的な取組にまでは至っていない。
 - ➡ 観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等と連携した取組の推進。→㉔
 - ➡ 地域振興や産業等、様々な分野に文化芸術の力を生かし、活性化につなげる方法の検討。→㉔

(9)文化芸術の推進による地域の活性化

- 文化が地域の活性化にはつながっていない。
- ライフスタイルや価値観の多様化等により個人での活動を重視する傾向にある。
- 高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響により活動に携わる人が減少している。
 - ➡ 文化を媒介とする、地域が活性化するような取組の支援。→㉔
 - ➡ 地域の文化財や郷土芸能などの保存活用を通して、地域のつながりが生まれる活動の支援。→㉕・㉔